

御坊市の介護保険事業の特徴(令和3年度分析)

1 分析に活用したデータ

「見える化」システムから

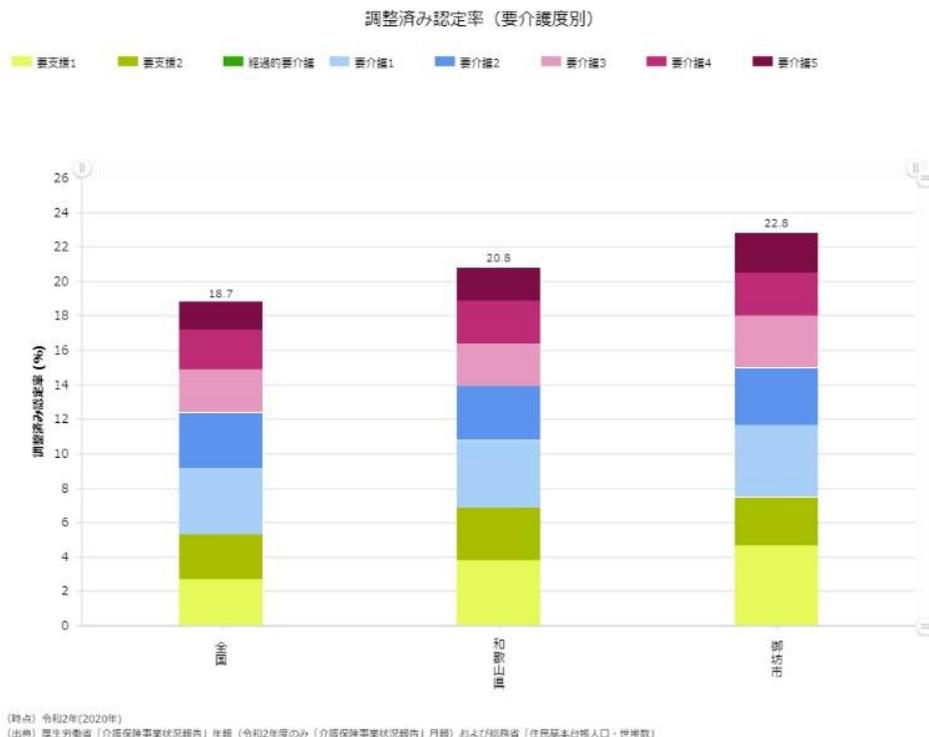
- ・調整済み認定率(要介護度別)
- ・高齢独居世帯の割合
- ・高齢夫婦世帯の割合
- ・受給率(施設サービス)(要介護度別)
- ・受給率(在宅サービス)(要介護度別)

2 分析方法

全国平均、和歌山県平均と御坊市を比較し、2012年からの高齢化率及び認定率の経年変化を分析しました。

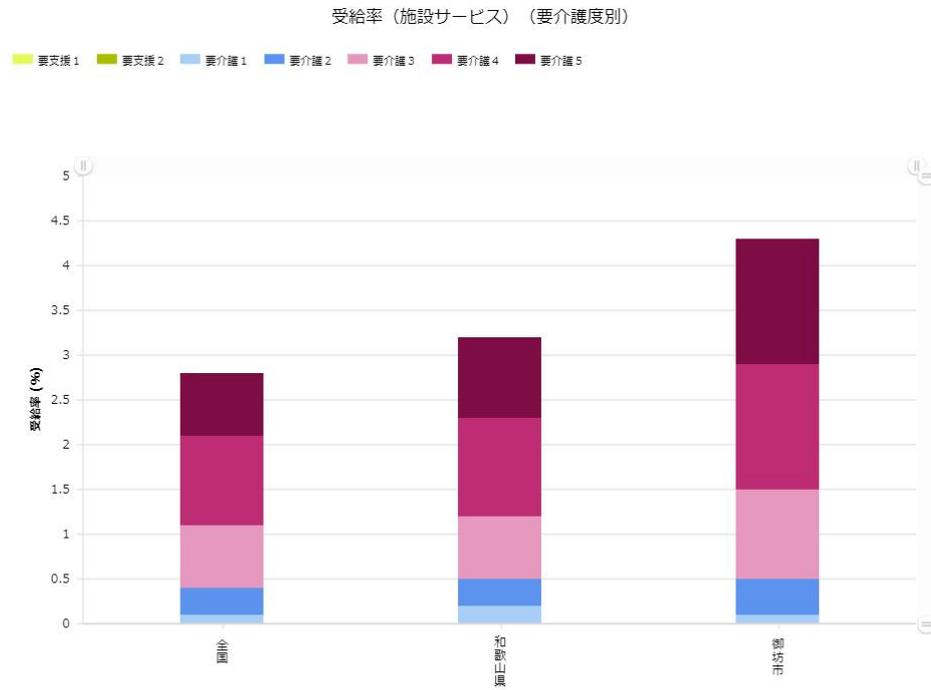
3 御坊市の特徴

認定率が全国平均、和歌山県平均と比較して高く、軽度者(要支援1)の認定率が特に高くなっています。



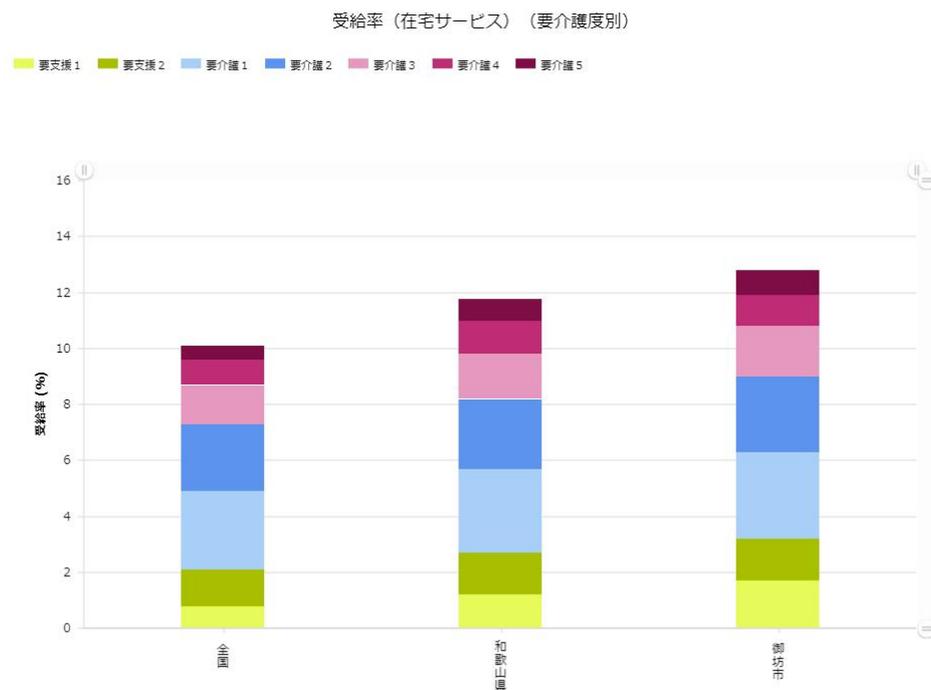
次に、要介護度別の受給率を全国平均、和歌山県平均と比較します。

施設サービスについては、全国、和歌山県平均と比べて高く、増加傾向です。



(時点) 令和3年(2021年)
(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和2,3年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

在宅サービスについても、施設サービスと同様に全国、和歌山県と比べて高くなっています。

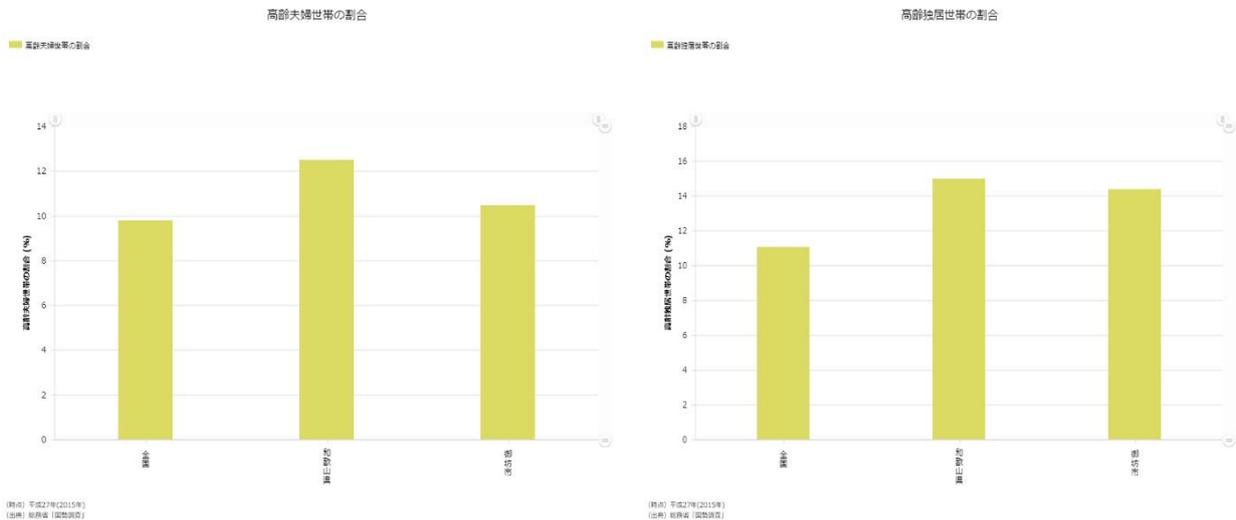


(時点) 令和3年(2021年)
(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和2,3年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

4 要因

(1) 認定率が高くなっている要因としては、高齢独居世帯・高齢夫婦世帯の割合が多いため、早い時期から将来の生活に不安を感じ、要介護認定の申請に至るためではないかと考えられます。

高齢独居世帯・高齢夫婦世帯の割合は、全国平均と比較し高くなっています。

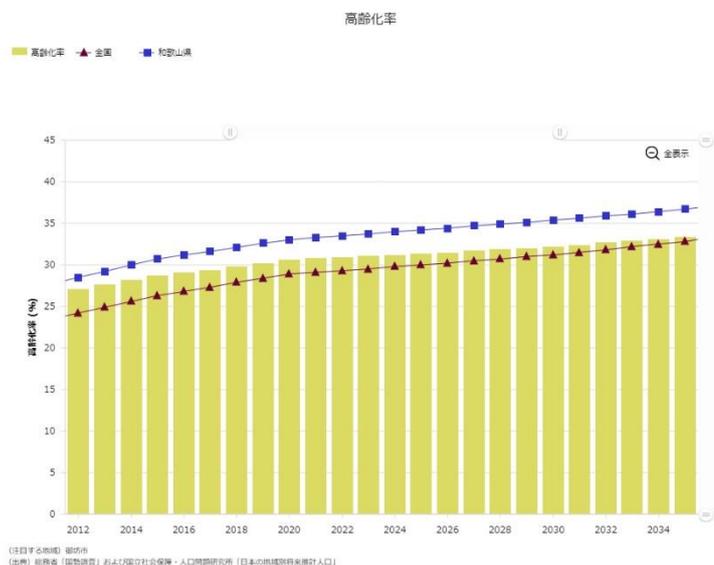


また、在宅介護支援センターの実態把握調査により、介護サービスが必要な方への対応が図られ、要介護認定の申請につながっていると考えられます。

要介護認定の新規申請時には、基本チェックリストは実施せず、認定調査を実施し、主治医意見書情報を得ることを原則としています。このため、軽度者の認定率が上昇していると考えられます。

(2) 施設サービスの受給率が高くなっている要因としては、世帯構造の変化に伴い、家族の介護力が低下し、早い段階で施設入所に移行しているためと考えられます。施設入所待機者が増加傾向にあることで、在宅サービスが施設サービスを代替し、在宅サービスの受給率も高くなっていると考えられます。

高齢化率については、上昇率は緩やかになりつつありますが、今後も上昇することが見込まれます。高齢者を地域全体で支える体制を整備する必要があります。



5 日常生活圏域別の特徴

日常生活圏域は、人口、地理的条件、交通事情その他の社会的条件、地域づくり活動など、地域特性を踏まえ地域ケア体制が効果的に機能するよう、概ね中学校区単位で設定されています。

御坊市における日常生活圏域は、以下の6圏域に設定し、各圏域の特徴を分析しています。

(1) 御坊圏域

面積は最も狭いが、市人口の約30%が居住する圏域で、少子高齢化の影響を最も強く受けています。独居高齢者が多く、男女ともに低栄養傾向にある割合が高くなっています。在宅サービスを利用している重度者の割合が高いことが特徴です。

(2) 湯川圏域

北部の農業地域と南部の商業地域に大きく二分されます。南部は官公庁や商業施設が集中しています。御坊圏域に次いで、人口が多く、御坊・湯川圏域で市の人口の半数以上を占めています。在宅サービス利用者に占める中度者の割合が高くなっています。

(3) 藤田圏域

若い世代の人口流入が多くみられる地域でしたが、近年は他の圏域と同様に人口は減少に転じています。高齢夫婦世帯の割合が多くなっていますが、生活機能が低下している状況にある方の割合は低い傾向にあります。居住型サービス事業所があることから、1人あたり在宅サービスの費用額は高くなっています。

(4) 野口圏域

農業が盛んで、2～3世帯同居世帯が多くみられます。高齢化率は26.7%と最も低くなっています。ボランティアや趣味の集まりなど地域での活動への参加状況が高い傾向にあります。入所施設が立地していますが、在宅の重度者の割合も高くなっています。

(5) 塩屋圏域

漁業と農業が盛んで、高齢就業者の割合は名田圏域に次いで多くなっています。独居高齢者の割合が低く、生活機能が低下している状況にある方の割合も低い傾向です。在宅の重度者の割合が低く、中度者が多くなっています。

(6) 名田圏域

漁業と農業(園芸)が盛んで、高齢就業者が多い地域です。高齢化率は37.7%と最も高く、最も低い野口圏域とは約10%の差があります。運動機能、生活機能共に低下している状況にある方の割合が高くなっています。